

教科	科目	単位数	開講学年	必修/選択	授業形態			
商業	ビジネスマネジメント	2	4	必修	講義	演習	実習	その他
					○	○		
教材費・準備物等			進路・資格・興味・関心など					
商業706「ビジネスマネジメント」実教出版副教材、電卓			商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスにおけるマネジメントに必要な資質・能力を育成することを目指す。					
科目概要	1章 ビジネスの創造 ・事業創造の基本 ・戦略と競争優位 ・事業創造の計画と実行 2章 ビジネスの組織化 ・組織のマネジメント ・分業と調整 ・組織の設計 ・組織内部のマネジメント ・取引関係のマネジメント 3章 経営資源のマネジメント ・財務的資源、人的資源、物的資源、情動的資源のマネジメント 4章 ビジネスの変革 ・ビジネスの拡大 ・多角化の動機 ・多角化企業のマネジメント ・事業の転換 5章 ビジネスと社会 ・社会における企業 ・企業への支援 ・企業の責任 ・企業への牽制		評価観点	知識技能	ビジネスにおけるマネジメントについて実務に即して体系的・系統的に理解し、ビジネスの様々な場面で役に立つマネジメントに関する知識を身に付けている。			
	思考判断表現	ビジネスにおける様々な知識などを活用し、ビジネスマネジメントに関する課題を発見するとともに、経済社会の動向、マネジメントに関する理論、データ、成功例や改善を要する例など科学的な根拠に基づいて工夫して解決することについて考えている。						
	主体的態度	ビジネスにおける様々な知識などを活用し、ビジネスマネジメントに関する課題を発見するとともに、経済社会の動向、マネジメントに関する理論、データ、成功例や改善を要する例など科学的な根拠に基づいて工夫して解決することについて考えている。						
				評価方法	定期考査だけではなく、授業中の取り組みの様子や内容も含め、総合的に評価する。 総合実習としてNAGAZONに取り入れることができる新規事業の計画の評価			
前年度履修すべき科目		なし						
継続で履修すべき科目		なし						

教科		科目	単位数	開講学年	必修/選択	授業形態				
商業		ビジネス法規	2	4	必修	講義	演習	実習	その他	
						○	○			
教材費・準備物等				進路・資格・興味・関心など						
教科書、ノート、ファイル				具体的なビジネス事象について法規と関連付けて考察する能力と知識を身につける。日常からビジネスにおける法規に触れる機会を多く持つようにしましょう。						
科目概要	1	法の概要		知識技能	ビジネスに関わる法の意義や基本的な権利・義務、契約、税などの法規に関する知識と技能を理解し、実務的に活用できる力を身につけている。					
	2	権利と義務・財産権			思考判断表現	具体的なビジネスの事例や課題を法的観点から捉え、問題解決に向けた適切な判断を行い、自分の考えを筋道立てて的確に表現できる。				
	3	財産権の変動				主体的態度	ビジネスと法規の関わりに関心を持ち、新聞や事例などを通じて積極的に知識を深めようとする意欲的な学習態度が見られる。			
	4	企業活動と法規		評価方法			定期考査提出物			
5	企業責任と法規									
	(株) Nagazonの考察									
	6	紛争の解決の予防								
	7	税と法規								
前年度履修すべき科目		なし								
継続で履修すべき科目		なし								

教科		科目	単位数	開講学年	必修/選択	授業形態			
商業		総合実践	2	4	必修	講義	演習	実習	その他
						○	○		協働・創造・地域連携
教材費・準備物等				進路・資格・興味・関心など					
タブレット（生成Aiソフト）				実践的な内容なので、進学にも就職にも活かすことができます。皆さんは、いずれは収入を得て生計を立てる立場にありますから社会との結びつきを大事にしましょう。					
科目概要	4～5月 地域課題の発見地元商店街、自治会、NP0などへのヒアリング／フィールドワーク 6～7月 課題解決の企画立案 商品・サービスの企画／ターゲット設定／収支計画 8～9月 試作・準備 商品試作／広報物作成／販売準備 10～11月 実践（販売・イベント） 地域イベントでの販売／SNS広報／顧客対応 12～1月 振り返り・報告 成果発表／反省会／次年度への提案 ※R7は竹プロジェクト。R8も竹プロジェクトを継承する。			評価観点	知識技能	ビジネスに必要な知識や技能が身に付きましたか。外部とのコミュニケーション力は身に付きましたか。			
	思考判断表現	自分で考えたり、生成Aiを使って調べたり、先生や周囲と相談しながら自分の役割を果たしましたか。自分の考えを相手に伝えるように表現できましたか。							
	主体的態度	授業をビジネス活動の一環と捉えて休まずに参加しましたか。自ら進んで授業に取り組みましたか。							
				評価方法	演習内容、授業内発表、実践提出物				
前年度履修すべき科目		なし							
継続で履修すべき科目		なし							

教科		科目	単位数	開講学年	必修/選択	授業形態				
商業		ネットワーク活用	2	4	選択	講義	演習	実習	その他	
						○	○			
教材費・準備物等				進路・資格・興味・関心など						
商業749「ネットワーク活用」 実教出版				商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことから、ビジネスを通じ、地域産業、経済社会の健全で持続的な発展を担う必要な基礎的な資質・能力を育成することを目指す。						
科目概要	1章 情報通信技術の進歩とビジネス ・ICTにより創造される新しいビジネス			知識技能	ビジネスにおけるインターネットの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている					
	2節 個人情報と知的財産の保護				思考判断表現	ビジネスにおいてインターネットを活用することに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。				
	2章 情報コンテンツの制作 ・図形と静止画 ・音声と動画					主体的態度	企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスにおけるインターネット活用に主体的かつ協働的に取り組んでいる。			
	3章 企業情報の発信とWebデザイン ・Webページの制作とデザイン			評価観点						
4章 インターネットと情報セキュリティ ・インターネットのしくみ ・ハードウェアとソフトウェアの導入 ・情報セキュリティの確保			評価方法		定期考査，単元ごとの小テスト，授業時でのワークシート，提出物などにより評価を行う。					
5章 電子商取引とビジネス ・ネットワークを用いたビジネスと電子決済 ・電子商取引サイトの開設準備 ・Webページ制作と集客方法 ・ビジネスの創造										
前年度履修すべき科目		なし								
継続で履修すべき科目		なし								

教科		科目	単位数	開講学年	必修/選択	授業形態			
商業		商品開発と流通	2	4	選択	講義	演習	実習	その他
						○	○		
教材費・準備物等				進路・資格・興味・関心など					
教科書、ファイル、準拠問題集				商品の企画・開発過程や流通の仕組みに関する理解、市場の動向や消費者ニーズの分析への関心、流通経路や物流管理の効率化への興味、販売促進やマーケティング戦略に対する興味					
科目概要	第1章	商品開発の基本		評価観点	知識技能	商品開発や流通の基礎的な用語・仕組みを理解し、流通経路、マーケティング戦略、商品管理などに関する知識を正確に説明できる力を身につけているかを評価する。			
	第2章	商品の企画			思考判断表現	実際の事例をもとに市場ニーズを分析し、課題に対して的確に考察・判断し、自らの意見やアイデアを論理的に表現する力があるかを評価する。			
	第3章	商品の開発			主体的態度	商品開発や流通の学習を通じて、日常生活や社会との関わりに興味関心を持ち、課題に対して粘り強く主体的に取り組む姿勢が見られるかを評価する。			
	第4章	事業計画		評価方法	定期考査 提出物				
第5章	商品開発の動向と課題								
前年度履修すべき科目		なし							
継続で履修すべき科目		なし							

商業		管理会計		2	4	選択	講義	演習	実習	その他	
							○	○			
教材費・準備物等					進路・資格・興味・関心など						
TAC748 管理会計 副教材 電卓					企業の経営管理に役立つ会計情報の提供と活用について学ぶ。管理会計は、企業の経営戦略や意思決定を支援するための重要なツールであり、現実のビジネスの場面で活用される実務的な知識を身につける。						
科目概要	第1章	管理会計の意義と目的			評価観点	知識技能	管理会計の基本概念、目的、役割を体系的に理解しているか。予算管理、原価計算、意思決定会計などの実務的な手法を適切に活用できるか。財務諸表や管理会計ツールを活用し、正確な計算や分析ができるか。				
	第2章	管理会計と原価計算					思考判断表現	会計情報を分析し、経営管理の意思決定における妥当性と課題を論理的に考察できるか。事例研究やケーススタディを通じて、創造的な解決策を提案できるか。グループワークやプレゼンテーションを通じて、自分の意見を的確に伝え、根拠に基づく主張ができるか。			
	第3章	標準原価計算				主体的態度		管理会計の知識を深めるために、自ら資料を調査し学習を進めているか。経営管理に関する問題意識を持ち、積極的に授業へ参加しているか。グループ活動において協働的に学び合い、意見交換を活発に行っているか。			
	第2編	短期利益計画									
	第4章	直接原価計算									
	第5章	直接標準原価計算									
	第6章	短期利益計画と原価予測									
	第7章	CVP分析と損益分岐点									
	第8章	感度分析									
	第9章	最適セールス・ミックスの決定									
	第10章	企業予算の編成									
	第11章	予算統制									
	第12章	組織構造と責任センター									
	第13章	セグメント別業績評価									
	第14章	経営意思決定の意義とタイプ									
	第15章	関連原価分析									
第16章	設備投資の経済性計算										
第17章	戦略的コスト・マネジメントの意義と手法										
第18章	目標原価計算										
第19章	活動基準原価計算										
第20章	品質原価計算										
第21章	ライフサイクル・コストニング										
前年度履修すべき科目		財務会計Ⅰ、原価計算			評価方法	定期考査、單元ごとの小テスト、授業時でのワークシート、提出物などにより評価を行う。					
継続で履修すべき科目		なし									